鳥取大学産学・地域連携推進だより

2012. 春

巻頭言 「地域の知的資源として」

鳥取大学　理事（研究担当，米子地区担当）・副学長
井藤 久雄

大学の使命は「教育」と「研究」を介した人材養成です。平成17年1月、中央教育審議会『我が国の高等教育の将来像』（答申）、「第１章 新時代の高等教育と社会」では、21世紀における大学と社会との関係が述べられ、社会貢献が大学の「第三の使命」とされました。

平成23年6月には国立大学協会から「国民への約束」が発表されています。その中には86国立大学が果たす役割として1)ナショナルセンター機能の徹底的強化、2)リージョナルセンター機能の抜本的強化、3)有機的な連携共同システムとしての機能強化、の三点が提示されています。

リージョナルセンターとは地域振興の中核拠点であり、地域の産業・経済活動、教育・文化・芸術・スポーツ活動、医療活動、歴史・文化の保存・伝承などの機能を担うことが謳われています。そのためには教職員や学生のみならず、地域住民、行政担当者、産業界もステークホルダー（利害関係者）と位置づけ、大学が説明責任、実行責任を果たすよう求められているのです。換言すれば、大学が地域に対して大きく門戸を開き、自ら出かけることが重要視されています。

鳥取大学産学・地域連携推進機構は大学、すなわち教職員や学生と地域を結ぶ重要な役割を担っており、より積極的、能動的な活動が期待されています。私たちは顔の見える鳥取大学、プロダクツの提示できる鳥取大学、歴史・文化の伝承に拘わる鳥取大学、生涯学習を担う鳥取大学を目指しています。産学・地域連携機構はそのコントロールタワー。地域への扉は常に開いています。地域の知的資源としての鳥取大学を有効に活用してください。

未来への鳥瞰

地域連携のコントロールタワーからみる風景は大山と中海を見渡す鳥瞰でした。
大学の使命を見つめる井藤先生の眼はコハクチョウの眼に重なります。
（絵・文：中村宗和名誉教授）

私たちは、地域社会から期待される存在となります。
私たちは、「利益相反」を克服した産官学連携を推進します。
私たちは、知的付加価値を高めるための自己研鑽に努めます。
私たちは、連携の実を上げるべく、学外者に対し敬意を持って接します。
私たちは、専門領域の異なる人材の幅広い協調を計ります。
私たちは、産官学各界が互いに情報を共有するよう努めます。

①研究推進に関する事業報告

1.鳥取大学ビジネス交流会（東京地区）【2 月 23 日(木)　開催：CIC 東京】

今回のビジネス交流会は、鳥取大学研究シーズ集の医療･福祉分野から(1)｢癌細胞を正常化するマイクロRNAの医薬応用｣医学部　病態解析医学講座･薬物治療学分野　三浦典正准教授、(2)｢アルツハイマー型認知症早期発見のための診断システムの開発｣医学部　生体制御学講座　谷口美也子助教（3）｢皮膚病態の解明に利用可能なマウスモデルの応用｣医学部　分子細胞生物学講座･免疫学分野　吉野三也准教授の３研究シーズを紹介致しました。製薬企業の他、電機、食品等異業種企業の新規事業部担当等38名の参加があり、これらの発表シーズは広範囲な適用分野･領域を有し関心を持たれていることが伺われました。また発表後の熱心な質疑応答及び並行して実施した個別相談会（3社）では共同研究等発表シーズマッチング相談が行われました。

2.産学官連携による鳥取県内中小企業向け海外経営戦略セミナー

【2 月 29 日(水)開催：ホテルニューオータニ鳥取】

本セミナーへの参加者は、企業関係約10名、大学関係約10名、関係団体等約10名の総勢32名であり、少数でしたが熱意のある中小企業に参加しておりました。広島大学産学地域連携センター・副センター長の高田忠彦氏は「発展途上国への技術移転と拠点工場立ち上げの要点」と題してタイ国での技術移転の実体験に基づいて具体的な説明がされました。ジェトロ鳥取貿易情報センター・貿易アドバイザーの瀬川浩一氏は「事例に学ぶ、海外で成功する経営戦略の要点」ということで中国での事業展開事情を概説なされました。最後に（独）中小企業基盤整備機構・国際支援センター・国際支援シニアマネジャーの山本　恵氏は「ベトナムに初めて企業進出するときの留意点」ということで、今、注目を集めているベトナムの事情について実践的で、興味深い内容をコンパクトにまとめて話されました。いずれの講演も参加者に大変好評でした。

3.鳥取大学-国立米子高専-神戸高専合同ビジネス交流会 in MOBIO-Forum

【3 月 1 日(木)開催：クリエイションコア東大阪】

今回のビジネス交流会は、自治体等の研究開発の助成金を活用した共同研究開発を目指そうとの呼びかけで鳥取大学、米子高専、神戸高専の３機関から新エネ・省エネに関する研究シーズを紹介致しました。交流会は冒頭に大阪府商工労働部の植木友紀子主査より「MOBIO（大阪府・ものづくりビジネスセンター大阪）の取組み」について、株式会社ラミーコーポレーション吉田容士経営企画課長から「大阪府助成金の活用事例紹介」に引き続き、鳥取大学の農学部附属フィールドサイエンスセンター長の山名伸樹教授は「稲わら有効利用を目指した機械開発」、米子高専機械工学科の松本至教授は「棒たてロボットと省力型二足歩行ロボットの制御」、神戸高専の荻原昭文教授は「省エネルギー光機能材料素子の開発」、鳥取大学工学研究科の岡本賢治准教授は「キノコを用いたバイオマスからのエネルギー生産」の発表が行われました。

ビジネス交流会の参加者は60名であり、交流会後の情報交換会では約50名が発表した先生方との交流を図られました。

4.とっとりネットワークシステム（TNS）全体会【3 月 13 日(火)　開催：鳥取大学広報センター】

TNSの登録研究会の会員である鳥取大学教員、鳥取県職員、企業人など関係者（35名）を集めて、TNS設立（平成17年11月）以来初めての全体会を開催した。この全体会では、まず関西ネットワークシステム（KNS）の企画・運営の指導者である堂野智史氏、与那嶺学氏による対談形式での基調講演「10年目を迎えた関西ネットワークシステム（KNS）」が自由な雰囲気で行われた。次いで、TNS登録研究会を代表して、「食品開発と健康に関する研究会」の松本通夫氏（鳥取県食品開発研究所特任研究員 兼 食品技術科主任研究員）、「鳥取大学 竹に関する研究会」の作野友康氏（鳥取大学名誉教授）が最近の活動報告を行いました。最後に、今後のTNSの活動についての意見交換会「TNSに何を期待し、そしてTNSは何を創出するのか？」が、コーディネーターとしてTNS運営委員長の菅原一孔（鳥取大学産学・地域連携推進機構 機構長）、パネリストとして産からは井上法雄氏（鳥取県情報産業協会副会長 兼 有限会社ウイル代表取締役）、官からは山下喜夫氏（鳥取県商工労働部産業振興総室産学金官連携室 室長）、学からは清水克彦（鳥取大学産学・地域連携推進機構地域貢献・生涯学習部門副部門長・准教授）、アドバイザーとして堂野智史氏を配し、自由闊達な雰囲気で行われました。予定時刻をオーバーして、一般参加者との間でも意見交換がなされ、TNSの今後の活動にとって、実り多い全体会になりました。

②地域貢献・生涯学習に関する事業報告

（鳥大連携三町関係）

1.第５回琴浦町地域活性化フォーラム【 2 月 19 日（日）開催：まなびタウンとうはく】

「大好きな琴浦町が生き残るためには!?」というテーマで、約100 名の町民が参加して開催されました。琴浦町出身で関西で活躍されている岡田信吾氏（元日本生命副社長）を講師に「地域の活性化」～自分の出来ることを実行しよう～と題しての基調講演に続いて、本学工学研究科の谷本教授からコミュニティビジネス調査結果について報告がありました。鼎談には、新日本海新聞社中部本社佐伯代表、山下町長、本学林理事が参加し、まず地域をよく知るということが大切、足下に地域活性につながる多くの資源や宝物があるのではないか、これからは観光にもっと力を入れるべきではないかなど多くの提言がありました。

2.第５回琴浦町産学金官連携情報交換会【 2 月 24 日(金) 開催：スイングパレス　】

第 5 回琴浦町産学金官連携情報交換会（鳥取大学振興協力会町内会員懇談会と併催）が開催されました。鳥取大学と琴浦町との連携事業、商工会の商工振興策、琴浦グルメストリートの活動状況、琴浦町関西事務所の活動状況、物産館ことうらの経営状況等の報告が行われた後、産学金官連携の強化について、活発な意見交換が行われました。

3.琴浦町・鳥取大学連携事業成果発表会【 3 月 10 日(土)開催：まなびタウンとうはく】

今年で 5 年目を迎えた鳥大と琴浦町の連携事業の成果発表会を開催しました。

琴浦町では､鳥大との連携事業が年々幅広く多方面にわたってきおり、この日は、本学農学部小林副学長（教授）と学生によりやまびこサークル（三本杉地区）との交流事業（地域貢献支援事業）について、本学農学部山名教授と学生から芝結束機の共同研究について、本学工学研究科松原教授と学生により津波防災に関する共同研究について報告を行いました。

参加者約 100 名は熱心に耳を傾けていました。

4.琴浦町農林水産業活性化研究会幹事会【 3 月 26 日(月)開催：琴浦町役場本庁舎】

琴浦町の基幹産業である農林水産業の将来を考える中で、緊急の課題の解決と将来構想を検討し、農林

水産業のより一層の活性化を推進することを目的に開催されました。
　研究会では、これまでの取り組みや今後の会のあり方、第１次加工施設の設置など来年度の取り組み課題について、活発な意見交換が行われました。

5.日南町環境フォーラム【 3月3日(土) 開催：日南町総合文化センター】

　地域で再生可能エネルギーの利用促進を図るためフォーラムが開催されました。開会にあたってコーディネーターを務めた工学研究科 西守教授から「地元の特性を生かして自然エネルギーを上手に活用してほしい」と挨拶がありました。各パネラーからは、国内で実際に行われている太陽光や風力を利用した発電事業の説明や省エネ活動について事例紹介と説明がありました。日南町の地域特性に合った再生可能エネルギーの利活用について、会場の参加者も交えて意見交換も行われました。

6.日南町・鳥取大学連携事業報告会【 3月3日(土)開催：日南町総合文化センター】

　今年度鳥取大学と日南町が共同して取り組んだ事例について発表し、これからの地域活性化に役立てるため報告会を開催しました。午前中の環境フォーラムに引き続いての開催となりましたが、地域住民をはじめ約60名の参加者がありました。農学部 日置教授から「オオサンショウオと共生する農業用水路づくり」について、医学部 祝部講師から「日南町のおいし水と名調査事業」について調査研究の内容やその成果等の報告がなされました。また、日南町教育課からは矢部副学長の協力を得て実施した地域教育事業と、今年度新たに開催した連携講座（にちなん町民大学）について発表を行いました。
　併せて会場内ではポスター展示も行われ、持続的過疎社会形成研究プロジェクトの事業で実施された研究内容について紹介を行いました。

7.南部町議会による鳥取大学視察・研修【 1月25日(水)開催：広報センター】

　今後の南部町の地域や産業のより一層の活性化を図ることを目的として、今回初めて町議会の鳥大訪問研修会が開催されました。今回は、新エネルギーをテーマとして南部町からは18名、本学からは10名が参加しました。
　最初に、南部町と鳥取大学の連携概要について説明があった後、谷本教授（工学研究科）から「南部町における職員研修～政策形成～」について報告があり、また南部町からは町の環境政策について説明がありました。後半では、簗瀬教授（工学研究科）から「未利用の木質系・草本系バイオマスを原料とする輸送用燃料（第二世代バイオエタノール）生産技術」について、藤本准教授（農学部）から「木質バイオマスの利用現況」について講演がありました。
　議員から、遺伝子組み換えバクテリアを利用してバイオマスを糖化しているが、生態系への影響はどうか、お米を原料としてエネルギーに変換することについてはどうか、など活発な質問がありました。

8.南部町・鳥取大学連携事業報告会【 3月14日(水)開催：南部町公民館多目的ホール】

　今回、初めて連携事業報告会が開催され、町会議員や町職員、一般町民約90名が参加しました。前半は、黒沢医学部副学部長から「がんのリスク評価と地域づくり」、福山教授（工学研究科）から「地域振興協議会の検証」、谷本教授と羅助教（以上、工学研究科）から「南部町職員研修」について報告が行われました。後半は、坂本町長、法勝寺地区地域振興協議会 堤副会長、本学の林理事等が参加して意見交換を行いました。坂本町長からは、町の課題を解決するために鳥大との連携を一層強化していきたい旨の話しがありました。会場からは、地域振興協議会、役場、町民との関わりをもっと良くしていく上での考え方等について質問がありました。

9.南部町と鳥取大学との連携協定締結式【 3月30日(金)開催：南部町法勝寺町舎】

　本学と南部町とは、平成21年度から医学部附属病院と連携し西伯病院におしどりネット（電子カルテ相互参照システム）を導入し、また平成22年度からは職員を湖山キャンパスに研修派遣するなど連携してき

ましたが、今後、連携を一層深めていくため、包括的な連携に関する協定が、能勢学長及び坂本町長出席のもと締結されました。協定では、南部町の活性化、学生の教育・研究活動、医学部附属病院と西伯病院の連携等に関することについて連携・協力することが謳われています。なお、調印式に先立って、町幹部職員と鳥大との意見交換会を行い、今後の事業のあり方等について協議を行いました。

（防災・危機管理関連）

10. 第３回とっとり防災・危機管理研究会【 1 月 16 日(月) 開催：産学・地域連携推進機構】

今年 4 月に工学部内に「附属地域安全工学センター」が設置されることが報告されました。このセンターでは、地震・津波・河川・土砂災害に対する防災・減災や過疎社会が持続的に運営できる方策、過疎地での公共バスの効率的な運用の方法について、地域と共に研究を進めることとなっています。
また、東日本大震災を受けて、鳥取県が進めてきた津波対策検討委員会の検討状況、島根原子力発電所避難計画の概要等が説明されました。

11. 防災教育報告会　【 2 月 28 日(火) 開催：日本海新聞中部本社 】

本年度、鳥取県と鳥取大学が連携して実施した防災教育推進事業の報告会が開催されました。モデル小学校３校（鳥取市立明徳小学校、倉吉市立高城小学校、大山町立大山西小学校）で実践された、たとえば理科の時間のなかで、地震の縦波・横波の伝わり方や速さの違いを利用して地震警報がなされる仕組みを鳥取大学の専門家と一緒に教材開発する様子等が報告されました。大学と強く連携していることと、各小学校が立地する地域と密着した取組みであることが鳥取型の特徴と言えます。会場には、県内小・中学校の教員、消防署員、防災関係者、さらに広島県西条市からの 5 名の視察団も加わり、およそ 110 名が熱心に聞き入りました。

12. 南部町第８回生涯学習マンスリー【 3 月 11 日(日)開催：南部町公民館 】

東日本大震災から１年目にあたる日に、南部町公民館多目的ホールにて、大学院医学系研究科の栗政准教授が「福島原子力発電所事故と放射線影響」と題し、講演会を開催し、約 30 人の町民が参加しました。
わかりにくい放射線の影響について、放射線の基本的な知識や、福島県を訪問したときの放射線の測定値、島根原子力発電所からの放射線の影響について、説明がありました。特に、南部町における放射線の影響や、昼と夜における放射線の流れ方の違いなど、具体例を挙げての話しがありました。会場からは、食品に与える放射線の影響について質問等があり、参加者は熱心に聞き入っていました。

13. 防災フォーラム　【 3 月 17 日(土)開催：広報センター】

とっとり防災・危機管理研究会主催により　「減災を科学する」～東日本大震災に学ぶ～をテーマにフォーラムが開催されました。
県危機管理局 桐林副局長から「東日本大震災を踏まえた鳥取県の対応について」、本学医学部　栗政准教授から「原発事故に対する避難について」、本学工学研究科 浅井准教授から「鳥取型防災教育の取り組みについて」、本学工学研究科　松見教授から「自助・共助の意識向上化のための地域の防災活動とは？」、セコム山陰株式会社　中谷室長から「ＢＣＰの必要性」と題して東日本大震災以降に取り組まれたさまざまな試みや研究成果について報告が行われました。
４月２日には、工学部附属「地域安全工学センター」が設置されることについても、報告がありました。

（とっとりバイオフロンティア関係）

14. 「とっとりバイオフロンティア」関西での説明会【 2 月 7 日(火)開催：中之島ｾﾝﾀｰﾋﾞﾙ 】

「とっとりバイオフロンティア」の取組みを関西の企業に広く周知し、今後の共同研究等連携への可能性について、理解を深めていただくために、セミナーが開催されました。現在、医学部と染色体工学技術センターでは、世界最先端の染色体工学技術の研究開発が進められ、ヒトと同

じ医薬品の代謝機能をもつマウスは、創薬開発や経費の削減など医薬関連企業等から大きく期待されています。当日は、染色体工学研究センター長の押村光雄教授から「世界最先端の染色体工学技術とその限りない可能性」について講演があり、その他染色体工学技術に係わる関連課題について、佐藤健三教授、香月康宏助教が講演を行いました。

15. 地域イノベーション戦略支援プログラム成果報告会【 2 月 17 日(金) 開催：米子商工会議所】

文部科学省の「地域イノベーション戦略支援プログラム」に「とっとりバイオフロンティア事業」が平成２２年度採択になり、３年間の事業で取組んでいます。この事業では、「人工染色体ベクター」を活用して医療や医薬品、機能性食品の応用研究や食品素材の商品化をめざしています。当日は、中間報告として研究代表である押村光雄教授からは「染色体工学技術に係わる基盤研究開発」について、また一方の研究代表である佐藤健三教授からは「染色体工学を用いた食品機能性評価に係わるシステムの開発と地域機能性食品の評価・商品化」について、その他の研究者から食品素材の機能性評価等の成果発表がありました。

16. スターウォッチング 2012 全国星空継続観察 in とっとり

【 1 月 21 日(土) 開催：鳥取市さじアストロパーク】

鳥取大学産学・地域連携推進機構と鳥取市さじアストロパークが連名で採択された「鳥取地域における地球宇宙科学を用いた生涯学習支援ネットワーク」事業（(独) 科学技術振興機構　平成 23 年度「科学コミュニケーション連携推進事業」）の一環として、天体観測会を行いました。これは日本全国で夏と冬に毎年行われている全国星空継続観察活動の一環として行われたもので，決められた手順で所定の範囲の星の見え方を観測し，天文学に親しんでもらうとともに光害や大気汚染の状況を計測することを目的としています。当日は曇り空で実際の観察はできませんでしたが，プラネタリウムを用いた講習を行い約 30 名の参加者が熱心に取り組んでいました。

17. 東・中・西部地区での手づくりまつり

【1 月 21 日(土) 開催：鳥取市こども科学館、1 月 29 日(日)倉吉未来中心：、2 月 5 日(日)：米子市児童文化センター】

ものづくり道場では鳥取県東部・中部・西部それぞれで子どもたちを対象に「冬のものづくり教室」を開催しました。3 会場全体でかさ袋ロケット、フラワーアレンジメント、2 石ラジオ等総計 45 ブースを出展し、約 590 名の子どもたちがものづくりを楽しみました。右の写真は、中部で開催したときの受付の混雑状態です。春・夏・秋にも開催しますので、ぜひ、ご参加下さい。

18. 第３回工学部中部地区出前技術講演会　【1 月 23 日(月) 開催：ホテルセントパレス倉吉】

本学工学研究科の技術・研究シーズを紹介し、産官学連携の推進と企業の独自技術の開発促進を図るため講演会を開催しました。

岡本産学官連携コーディネーターによる　中部地区オフィスと中部ものづくり道場紹介の紹介に引き続いて工学研究科　岡本准教授による「キノコによる未利用バイオマスからのエネルギー生産」と題した講演に、約 50 名の参加者は熱心に耳を傾けていました。講演会終了後、第 25 回中部元気クラブが併催されました。

19. 第４回新エネルギー活用研究会　【1 月 24 日(火) 開催：広報センター】

今回の研究会では、平成８年度に制定された「鳥取県環境の保全及び創造に関する基本条例」に基づき、本年度中に策定予定の「とっとり環境イニシアティブプラン」について、県生活環境部環境立県推進課から、研究会に対して説明がありました。特に、同プランの中でも、エネルギーシフト分野（太陽光発電、風力発電、バイオマス、小水力発電、マイクロ水力発電、温泉熱利用など）について具体的な説明があり、約２０名の参加者からは、もっと地元鳥取県の産業や技術力に視点をあてた内容にしてほしいなどの意見が出ました。

20. 鳥取市と鳥取大学の意見交換会　【2 月 2 日(木) 開催：鳥取市役所】

鳥取大学の地域貢献や産官学連携等について、鳥取市との一層の連携強化を図るため、意見交換会を開催いたしました。今年で 5 回目となるこの会には竹内市長、担当部課長、能勢学長、理事、副学長等 22 名が出席しました。

主なテーマとして、市からは三洋 CE 事業再編に係る支援策、鳥取市若者会議への大学生の参加、内科系医師の派遣等、また、鳥大からは湖山池の水質浄化の問題や東部管内企業との組織的な連携強化など産官学連携、さらには秋入学について提案しました。

21. 鳥取大学振興協力会役員会・総会　【2 月 3 日(金) 開催：ホープスターとっとり】

年１回の総会及び平成 24 年第１回目となる役員会を開催しました。総会は約 80 名の参加があり、議題として、役員及び顧問の選出、平成 23 年度事業報告及び収支決算、平成 24 年度事業計画及び収支予算について審議を行い、すべて承認されました。その後、小幡文雄教授（工学研究科）による「鳥取大学教員としての 21 年間を顧みて」記念講演が行われました。

役員会では、西部地区の理事から、学生による企業訪問の実施について提案があったり、地域産業の活性化について本学の取組みについて質問等があったりしました。

22. 農医連携セミナー　【2 月 6 日(月) 開催：米子ワシントンホテル】

「地域食材を活用した健康まちづくりと産業の活性化」というテーマでセミナーが開催されました。高知大学　受田副学長（国際・地域連携センター長）を講師に「地域食材と健康～高知県産学官連携・医農連携の挑戦」と題しての基調講演に続いて、本学医学部　谷口助教から「認知症予防へのアロマオイルの活用」、株式会社ハイパーブレイン　加藤代表取締役から「アロマオイルの市場動向」、ハーブの利用に関する研究会　作野会長（本学名誉教授）から「ハーブの利用に関する研究会活動～ハーブ栽培と今後の展望」と題した事例発表がありました。参加者約 70 名は、熱心に聞き入っていました。

23. とっとり観光振興研究会　【2 月 13 日(月) 開催：大山町】

約 20 名が参加して、第７回目となる研究会を名和公民館で開催しました。前半に、大山町での取組み事例として、大山恵みの里づくり計画や大山観光局の説明があり、観光振興について意見交換を行いました。後半では、観光振興をテーマにした南部町での職員研修の報告や、医学部生命科学科４年楊　振楠（ヤン　チェンナン）さんによるメディカルツーリズムに関するプレゼンテーション等が行われました。

最後に、鳥取県の観光戦略のあり方「鳥取県の観光施策に関する体系」について、県観光政策課の西尾課長から説明がありました。

24. 鳥取県経済訪泰団【2 月 14 日(火)～2 月 18 日(土) 開催：タイ王国　バンコクほか】

鳥取県産業振興機構の主催で、日系大手自動車企業等が生産拠点とするタイ王国における技術交流や生産、部品輸出等取引の可能性を探るため、県内企業を含む日系進出企業等を視察する経済団が派遣されました。県内企業、金融機関、県など 30 名で構成され、本学からも参加致しました。当初昨年

11 月に予定されていましたが、洪水の影響で 2 月に延期されたものです。すでにバンコク市内では洪水被害の痕跡は見当たりませんでした。この派遣を通じ、現地日系企業の実態や投資状況について理解を深め、タイが重要なマーケットの一つであることを再認識しました。

25. 鳥取県宇宙航空技術研究会セミナー【 2 月 16 日(木) 開催：広報センター】

宇宙航空技術の民間利用のため、産業振興機構が主催してセミナーが開催されました。ＪＡＸＡ（宇宙航空研究開発機構）の成り立ちをはじめ、知的財産の民間利用、特許技術の活用方法などの事例紹介が行われ、参加者は熱心に聞き入っていました。

26. 第 6 回鳥取大学と鳥取県商工会連合会の連絡会【 2 月 16 日（木）開催：県商工会連合会】

約 30 名が参加して、恒例となった連絡会を県商工会連合会で開催しました。鳥取大学からは、和田コーディネーターから「技能教育システムの開発」、足森コーディネーターから「国産アロマオイルを用いた認知症への応用」について発表がありました。県商工会連合会の中部商工会産業支援センターから「三朝温泉水を活用したジェル、ペット ボトル飲料の研究開発及び販路開拓」、西部西商工会産業支援センターから「桑の葉エキスを活用した新商品開発」について報告がありました。その後、意見交換を行い、県商工会連合会から「コーディネーターに気軽に相談できるようになった。」旨の意見等がありました。

27. 大山・日野川・中海学協会幹事会　【2 月 20 日(月) 開催：米子コンベンションセンター】

今年度第 3 回目となる幹事会を開催し、事業を行う上での問題、例えば産業界の関わりが少ない、協会のテキストの工夫、検定のインセンティブをどうするか等の重要課題の整理と、その課題解決に向けた意見交換を行いました。事務局を含め約 16 名が出席しました。出席者からは、教育機関ともっと連携を図れるように、規約の改正をした方が良い、またもっと地元に活動を広げていくために協会の自立力を高めていかなければならない等の活発な意見がありました。今後も、幹事会を開催し、課題について意見交換を行っていくことについて了解を得て、閉会となりました。

28. 日野川の源流と流域を守る会総会　【2 月 20 日(月) 開催：米子市文化ホール】

開会にあたり会長である本学能勢学長より「守る会の活動は、河川だけでなく歴史や文化の保全にもつながってきている。この活動を通じて世の中の流れを考えていきたい。」との挨拶がありました。

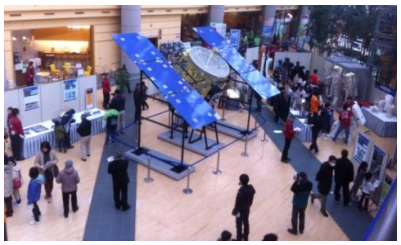
新年度活動計画等が審議された後、講演会において本学工学研究科岡田研究員より、オオサンショウウオの生態や保全活動について記念講演が行われ、約 100 名の会員が熱心に聞き入っていました。

29. 進出企業と北栄町長との意見交換会【2 月 24 日(金) 開催：北栄町大栄農村環境改善センター】

北栄町に進出している企業と北栄町、鳥取大学、県中部総合事務所、中部商工会産業支援センター、県産業振興機構との意見交換会が初めて開催されました。町内在住の従業員が少ない、若者の定着率が低い、新入社員教育について商工会連合会が協力する方法もあるのではないかなどの意見や要望が出されました。

30. サイエンス・スペースワールド in とっとり【 2 月 25 日(土)～26 日(日) 開催：倉吉市未来中心】

「はやぶさ」の持ち帰った微粒子の一般公開や関係者の講演などが行われました。（主催：鳥取県，岡山大学地球物質科学研究センター，鳥取県産業技術センター）「はやぶさ」の微粒子が一般公開されるのは世界初のことです。2 日間で 14,600 名の来場者があり，大人から子供まで多くの方が熱心に参加されていました。鳥取大学からは学生による人工衛星プロジェクト「T-SAT」が出展し，試作機の展示や実験の様子をビデオで上映するなどして注目を集めていました。産学・地域連携推進機構は関係機関との調整や出展に関するサポートを実施しました。



31. 第９回食品開発と健康に関する研究会　【3 月 7 日(水) 開催：米子コンベンションセンター】

食品関連企業・団体等、鳥取県関係者および本学から等約 50 名が参加し、「健康」をキーワードにした食品開発と関連産業の活性化について、講演（會見忠則氏（本学農学部　教授）「食品中の変わった乳酸菌のお話」、阿部雄悦氏（夢食研㈱　代表取締役）「食品保存酵素夢２１（特許技術）のはたらき」、松本通夫氏）、分科会（農・畜産物加工、機能性食品開発、水産物加工）報告に引き続き、食品業界の状況、来年度の食品開発研究所の課題、今後の活動について情報交換が行われました。
夢食研㈱からは、宮城県女川町で東日本大震災の津波に被災し、現在伯耆町に移転して再起を図ろうとしている様子をご紹介いただき､参加者に感銘を与えるとともに､その技術に大きな関心が寄せられました。

32. 日本海水産資源研究会　【3 月 8 日(木) 開催：鳥取県立博物館】

「日本海水産資源・マグロの内臓料理の美味しさを広める会」(平成 23 年度食のみやこ鳥取県づくり推進事業）と合同で開催されました。第 1 部は 32 名が参加しました。和泉好計代表（工学研究科）「鳥取県産クロマグロの内臓の有効利用に関する研究」をテーマに石原幸雄(鳥取県水産試験場)、渡邊文雄、森本稔、田村純一、清水克彦（以上本学）各氏より研究成果が報告されました。また、増田紳哉氏（鳥取県水産試験場　場長）より「鳥取県とクロマグロ」と題して特別講演をいただきました。第 2 部では館内のレストラン「カフェ・ダール・ミュゼ」において、河崎妙子氏がマグロの内臓を利用した創作料理を発表し、60 名を超える来場者により試食が行われました。料理はいずれもマグロ内臓のイメージを変え、好評を博しました。

33. 中部地区産学金官連携推進連絡会事務局会議・農商工連携ワーキンググループ会議

【3 月 13 日(火) 開催：中部総合事務所】

中部地区における産学金官を推進し、地域資源・産物の高付加価値化及び新産業展開のための情報交換やビジネスマッチングなど地域の産業活性化を目的に中部地区産学金官連携推進連絡会事務局会議と農商工連携ワーキンググループ会議が開催されました。事務局会議では、関係機関との連携方策や次年度総会方針などについて協議を行いました。農商工連携ワーキンググループ会議では、農産物 1 次加工施設の開設支援と 1 年間の進捗状況について報告がありました。

34. TNS（とっとりネットワークシステム）全体会【3 月 13 日(火) 開催：広報センター】

県内の研究会同士の交流を目的としたＴＮＳ（とっとりネットワークシステム）の全体会が、ＫＮＳ（関西ネットワークシステム）の世話人である堂野氏、与那嶺氏を招いて開催されました。岩手県での先進事例や関西ネットワークシステムの運営手法の紹介ののち、ＴＮＳのあり方についてのパネルディスカッションも行いました。

35. 持続的過疎社会形成研究プロジェクトフォーラム【3 月 17 日(土) 開催：広報センター】

「自然の脅威に適応した地域づくりに向けて」と題し、ファーラムを開催し、約 40 名が参加しました。最初に、田中科長（工学研究科）から、4 月に設置予定の「地域安全工学センター」について説明があった後、谷本圭志教授（工学研究科）から「過疎と豪雪」、土屋哲准教授(工学研究科)から｢地震復興と地域づくり～中越地域の事例より｣、羅貞一助教（工学研究科）から「コミュニティによる共助の仕組みづくり」、松見吉晴教授（工学研究科）から「高齢・過疎社会における地域安全システム」について、それぞれ発表がありました。防災に対して関心が高まっている中での発表であり、参加者は熱心に研究内容を聞き入っていました。

36. 湖山池の浄化及び有効利用に関する連絡会【 3 月 19 日(月) 開催：広報センター 】

湖山池の水質保全に係わる鳥取県、鳥取市の行政機関、公設試験場の方および鳥取大学の研究者ら 24 名が集まり、平成 23 年度の連絡会が開催されました。平成 22 年 6 月から 7 回の湖山池会議を経て、平成 24 年 1 月に「湖山池将来ﾋﾞｼﾞｮﾝ-恵み豊で、親しみのもてる湖山池を目指して」を策定したことが報告されました。将来ﾋﾞｼﾞｮﾝは、1) 良好な水質、2) 豊かな生態系、3) 暮らしに息づく池(利活用の推進)を目指しています。続いて、平成 25 年 9 月 21 日から湖山池公園お花畑会場で開催される「全国都市緑化とっとりﾌｪｱ」の概要が説明されました。さらに、鳥取大学の博士後期課程の李 衡峻(ｲ ﾋｮﾝｼﾞｭﾝ)氏が 4 年間の研究成果「湖山池周辺の農地からの汚濁物質の流出」を発表し、活発な意見交換を行いました。

37. 鳥取大学・鳥取銀行連携セミナー【 3 月 21 日(水) 開催：旧保健学科棟】

鳥取大学と鳥取銀行の連携セミナー「地域医療の充実を目指して」が初めて開催されました。講演の前の院内ツアーには 9 名が参加し、医学部附属病院の最新機器を見学し、参加者の関心の高さがうかがえました。

センターでは、鳥取大学医学部 谷口晋一 教授が「地域医療体制の充実」について、株式会社川原経営総合センター 長岡秀和 監査支援室長が「医療政策の動向」についてそれぞれ講演し、約 60 名の参加者は熱心に聞き入っていました。

38. 竹林整備と竹材利用に関する連携協議会設立【 3 月 24 日(土) 開催：とりぎん文化会館】

「鳥取大学竹に関する研究会」を発展的に改組し、鳥取県内の竹林整備や竹材利用に関する諸機関が参画した「竹林整備と竹材利用に関する鳥取県連携協議会」が設立されました。総会設立後には竹利用フェスティバルを開催し、特別講演として、竹文化振興協会の専門員である渡辺政俊講師から「モウソウチクの生態と拡大およびその利用」について、また（財）南部町地域振興会の常務理事の景山浩講師から「竹するめの開発について」についてお話しを頂き、続いて「竹するめ音頭」のおどりが披露されました。なおフリースペースでは、竹製品の展示・即売会、竹に関する研究パネル展示を、鳥取県内竹関係業者、鳥取大学ものづくりカフェ、鳥取木工芸振興会が行い、全体で約 60 名の方々が参加しました。

39. 大学発ベンチャー設立記念式典 【 3 月 30 日（金）開催：米子コンベンション 】

鳥取大学発ベンチャー「（株）楽人」と「（株）ジーピーシー研究所」が設立され、その記念式典が開催されました。（株）楽人は、地元温泉から分離・培養された好熱菌を利用して農水産業への普及や産廃処理などへの利用開発を行います。（株）ジーピーシーは、遺伝子工学や細胞工学などの技術を用いて、遺伝子改変細胞の作成や作成した細胞を用いた創薬ビジネスの創出を行います。記念式典では、能勢学長のあいさつのあと、大学発ベンチャーの紹介、記念講演では農学部の有馬准教授から「応用開発を目指した好熱菌由来の有用酵素探索」、生命機能研究支援センターの大林准教授から「バイオコントローラ染色体を用いた次世代型創薬開発」の講演を行いました。その後、2 社に対して大学発ベンチャーの称号記が授与されました。

③知的財産管理運用に関する事業

1. オープンイノベーション講演会 【1 月 19 日(木) 開催：工学部大学院棟大講義室】

1 月 19 日、三菱電機株式会社の上席常務執行役開発本部長である堤和彦氏による講演会が開催されました。堤氏からは、三菱電機の最新技術による商品や、人工衛星等の次世代宇宙プロジェクト、大学等との連携によって研究開発を進めるオープンイノベーションについて、最新情報を中心に講演されました。当日、講演会には教職員や学生など 260 名の参加者が聴講し、熱気のあふれる会場となりました。最後に堤氏は自身の体験から、研究者として多くの人の支援を受けながら技術開発を成功させてきたことを紹介し、特にコミュニケーションの重要性について述べてい

ました。また、講演の中での動画や配布された資料からも三菱電機の目指している事業開発戦略も知ることができた講演会でした。

2. さんさんコンソ 第１回 未利用資源活用ワークショップ

【2 月 15 日(水) 開催：(株)センコースクールファーム鳥取】

さんさんコンソの本年度の重点テーマである未利用資源活用の一環として、「希少きのこ“松露（ショウロ)”の復興と海岸松林の再生」をテーマとしたワークショップを開催しました。本ワークショップでは、松露の人工栽培に関する発明者の農学部霜村典宏准教授と、鳥取県農林総合研究所 林業試験場 有吉邦夫上席研究員から技術説明を行い、38 名の参加者とディスカッションを行いました。また、産学・地域連携推進機構からは、前波講師による産学連携の進め方についての説明、加藤プロデューサーによる事業シミュレーションの説明を行いました。今後、本イベントをきっかけとした共同研究や、事業化へと繋がることを期待します。

3. 有体物移転取扱い（ＭＴＡ）セミナー

【3 月 19 日(月) 開催：地域学部棟 2F 多目的室､学務･研究課第 2 会議室（テレビ会議）】

研究成果物である有体物（動物、植物、微生物、化合物、素材など）の、学外からの受入又は提供に関する取扱い方法および契約について、産学連携を含めた大学の先進的な取組み事例を全国イノベーション推進機関ネットワークのプロジェクト統括である前田裕子氏に発表して頂きました。また、知的財産管理運用部門の佐々木部門長より鳥取大学のＭＴＡ（有体物移転契約）に関する現状を説明致しました。参加者から研究の進展に係るＭＴＡの内容についてなど多くの質問がありました。

4. バイオフロンティアシンポジウム＆さんさんコンソ第 9 回経営戦略講演会（合同開催）

【3 月 6 日（火）開催：米子コンベンションセンター】

米子地区を拠点とした「とっとりバイオフロンティア」における研究成果の産業化を促進させることを目的に、「地域経済活性化を目指したバイオビジネスと今後の戦略」をテーマとして、（財）鳥取県産業振興機構、（財）鳥取バイオサイエンス振興会、中国地域産学官連携コンソーシアム（さんさんコンソ）が、「バイオフロンティアシンポジウム」と「さんさんコンソ第 9 回経営戦略講演会」を合同開催致しました。本ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑには、56 名の参加者があり､医薬･バイオ分野におけるベンチャー企業経営に関して優れた実績を有する 3 名の経営者からの講演の後､知的財産戦略や､首都圏と地方における違い等、ベンチャー企業経営における考え方について、染色体工学研究センターの押村光雄センター長をコーディネーターとしてパネルディスカッションを行いました。

5. 知的財産セミナー 【3 月 7 日(水) 開催：島根大学】

さんさんコンソの事業の一環として、島根大学に会場を置いて、知的財産セミナーを開催しました。本セミナーでは、特許庁で長年審査・審判を担当され、現在、山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構 知的財産部門長の佐田 洋一郎 教授を講師としてお招きし、「大学知財のリスクマネージメントと成功事例にみる知財活用の新たな視点」と題して講演いただきました。当日は、大学・公設試から 25 名が参加し、佐田先生の長年の経験・知識を踏まえた知財マネージメントや、発明をめぐってのトラブル対策等について、熱心に耳を傾けました。

6. 食品分野研究シーズ発表会 in 大田

【3 月 9 日（金）開催：島根県立男女共同参画センターあすてらす】

島根大学主催により、島根県大田市において食品分野の研究シーズ発表会が開催されました。全体で 7 件の発表があり、本学から農学部生物資源環境学科の藪田行哲准教授が「植物由来ポリフェノールのプラーク（歯垢）形成阻害効果」と題した発表を行いました。発表会には、産学連携および企業関係者を中心に約 90 名の参加者があり、食品分野の研究に対して高い関心が伺えました。

7. 第 7 回中国地域産学官連携コンソーシアム外部評価委員会

【3 月 28 日(金)開催: ホテルニューオータニ鳥取】

中国地域産学官連携コンソーシアム（さんさんコンソ）の第 7 回外部評価委員会が、鳥取において開催されました。本外部評価委員会は、半年に一回開催しており、平成 20 年度から始まって、今回で第 7 回目となりました。コンソーシアムの外部評価委員 7 名からコンソーシアムの事業について、評価とアドバイスといただくと共に、正会員・特別会員の参加者からご意見をいただきました。平成 24 年度が文科省補助事業の最終年度となるため、コンソーシアムの自立化や、特色のある活動などについて活発な討論が行われました。

◆今後の催物（平成 24 年 4 月～6 月）◆

サイエンス・アカデミー【日時： 第 2、4 土曜日 10:30～12:00 開催： 鳥取県立図書館】

月　日	テーマ	所属・役職	氏　名
4 月 14 日	巨大地震による液状化と津波被害を考える	鳥取大学　名誉教授	藤村　　尚
4 月 28 日	原子力発電所事故と放射線影響 ～福島の教訓を鳥取で生かすために～	大学院医学系研究科　准教授	栗政　明弘
5 月 12 日	地域防災力の向上化に対する自助公助の役割	大学院工学研究科　教授	松見　吉晴
5 月 26 日	鳥インフルエンザウイルスと野鳥	農学部　教授	山口　剛士
6 月 9 日	感染症予防のための備え（仮題）	医学部　教授	景山　誠二
6 月 23 日	電流の流れやすさ・流れにくさから地震の発生場を探る（仮題）	大学院工学研究科　教授	塩崎　一郎

とっとり駅南教室【日時： 第 1 土曜日 13:30～15:00 開催： 鳥取市立中央図書館】

月　日	テーマ	所属・役職	氏　名
4月7日	「マクロ経済・世界の投資環境」	野村證券(株)米子支店 ファイナンシャルアドバイザー	中嶋　智正
4月21日	「債券投資」の基礎	野村證券(株)米子支店鳥取営業所ファイナンシャルアドバイザー	本村　恵子
5月19日	「世界の株式投資」の基礎	野村證券(株)米子支店ファイナンシャルアドバイザー課長	山田　次郎
6月 2日	「投資信託」 の基礎 ①	野村證券(株)米子支店ファイナンシャルアドバイザー	砂原　孝司
6月16日	「投資信託」 の基礎 ②	野村證券(株)米子支店ファイナンシャルアドバイザー	福本　直樹

発行日:平成 24 年 4 月 1 日＜第 28 号＞　連絡先:鳥取大学産学・地域連携推進機構
所在地:〒680-8550 鳥取市湖山町南 4-101　ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ:http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/
TEL:0857-31-5609　Fax:0857-31-5571　E-mail:ken-somu@adm.tottori-u.ac.jp